

総務常任委員会 視察研修報告

(期間) 10月29日～31日

(目的及び視察地)

○空き家対策について

(東京都大田区区議会)

○防災について

(東京都北区防災センター)

○決算事務事業評価について

(東京都多摩市市議会)

1日目は、大田区において、全国で初めて危険な家を自治体が解体するという空き家対策事業を実施したことを研修した。解体することには多くの問題はあ

るが、小城市でも今後取り組む必要性を感じた。

2日目は、北区の防災センターを視察し、災害時のために必要な物資を保管することや地震の体験コーナーでは、震度の違い等を体験しその恐ろしさを肌で感じた。

3日目は、多摩市を訪問し決算事務事業評価について視察した。10年前より9月議会中に前年度の決算を認定し次年度の予算に反映させる仕組みができていた。その中で諸々の事業について評価をすることにより予算編成等ができるのではと感じた。先進地で研修したことを今後の小城市の発展に生かしていく。



▲大田区での視察のようす

文教厚生常任委員会 視察研修報告

(期間) 11月12日～14日

(目的及び視察地)

○日本語教育について

(東京都世田谷区)

○孤独死ゼロ作戦について

(千葉県松戸市常盤平団地)

○生活困窮者支援モデルについて

(東京都足立区)

1日目は、世田谷区の教科日本語の取り組みについて視察。文科省から教育特区として平成19年に区内公立小中学校93校で授業開始。日本文化の継承・親しみに力点を置き小中学校全校で古典を導入。各学校に日本語の担当者を配置。

時の教育長が導入に熱心。最大の狙いは、言葉の意味や背景を知り、深く考えること。考える力を養う。中学の国語の教員から、こんなに古典に抵抗感のない子どもたちは初めてとの感想が出された。

2日目は、千葉県松戸市の常盤平団地の孤独死ゼロ作戦。50年前の2万人を超えたモダンな団地は、今総世帯数5,356戸。3年前に死後3年

経過の白骨死体発見から、民生委員、団地社会福祉協議会、自治会役員、関係者で対策。自治会発行、シンポジウムの開催、いきいきサロン、あんしん登録、行政との連携。死と正面から向かい合い、孤独死ゼロを目指して取組んでおられた。

3日目は、足立区的生活困窮者自立支援モデル事業について意見交換。自殺対策から就労支援まで幅広く、相談件数は多く、解決には相当時間がかかることなどを知ることができ実際の視察であった。

2日目は、千葉県松戸市の常盤平団地の孤独死ゼロ作戦。50年前の2万人を超えたモダンな団地は、今総世帯数5,356戸。3年前に死後3年



▲千葉県松戸市での孤独死ゼロ作戦の説明を受ける

産業建設常任委員会 視察研修報告

(期間) 11月17日～19日

(目的及び視察地)

○「地域振興ふれあい拠点施設」について

(埼玉県春日部市)

○中心商店街の空き店舗対策や観光客の回遊性について

(群馬県富岡市)

○地方創生とオスプレイ配備計画について

(衆議院会館)

1日目は、地域振興ふれあい拠点施設における、管理、運営及び施設利用状況や協働団体の活用状況の調査を行った。管理については指定管理者に委託されており、建物の特徴、特性を生かして最大限の利用促進をする能力が問われている。利用状況等については、市民活動団体などが使用登録されており、開設当初は152団体が登録されていたが現在379団体と増加していた。

また、センターの特徴としては、市民活動機能にあるといえる。市民活動をしたい人への組織の立ち上げ、運営、活動などについて

2日目は、富岡市の中心商店街で富岡製糸場来場者に対するサービス向上が図られており、「おもてなしと回遊性」向上事業が実施されていた。現在は空き店舗対策がなされており、観光客誘致に関しては、近隣の県や市町の観光地との広域的なネットワークを構築し連携することも考えられていた。

3日目は、各省庁の担当者へ専門的な講義を受けた。

また、センターの特徴としては、市民活動機能にあるといえる。市民活動をしたい人への組織の立ち上げ、運営、活動などについて



▲春日部市での視察のようす